



教育研究所だより

令和3年度 No.11 (376号)

令和3年 9月29日 (水)

発行所：いの町教育研究所



ぷっくりハート推進事業 吾北小 校内研修

9月15日(水)に、吾北小学校にて研究授業と学校版寺子屋を行いました。今回は他校から多数の参観希望者がありましたが、特別警戒中のため、残念ながら校内研修となりました。

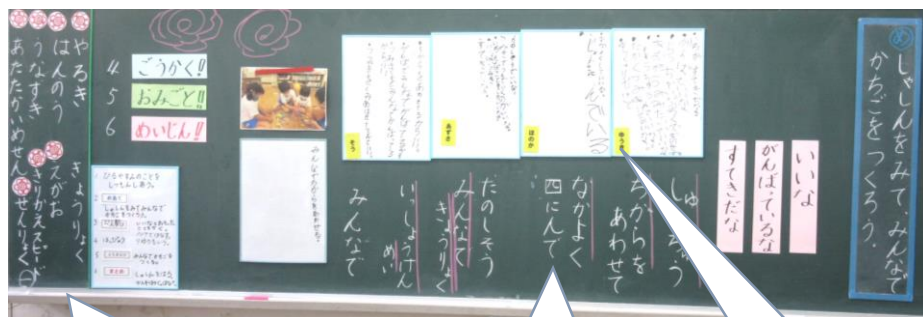
◇公開授業「価値語を作ろう」

価値語を自分たちで見つけるために、写真を見て気づいたことを一人一人がそれぞれ書き出し、それを共有しながら一つの価値語を作っていく活動でした。

児童は自分の考えをホワイトボードに箇条書きでどんどん書き、考えを広げていました。田中教諭は児童の意見の中からキーワードを聞き取り、板書しました。

その後、それぞれの言葉を元に、一つの価値語に絞っていく活動を行いました。児童のリーダーを中心に、友達から出た言葉の中から自分たちにふさわしい言葉を選び、できた価値語を発表しました。

授業の最後には、児童は参観者に授業の感想を伝えたり、質問に答えたりする活動をしました。



5分の1黒板。
対話において、児童に
意識させたいことを書
き、評価しています。

児童の発表の中
から、先生がキー
ワードを聞き取り、
書いています。

児童の考えを書
いたホワイトボ
ードを貼っています。

田中先生より



本学級の児童は1学期の途中から、価値語作りに取り組んできました。本時はとにかく、子どもたちが写真のいいところをたくさん書けるようにと考えました。「協力」という価値語にしたかったが、思い通りの結果にはなりませんでした。どうしたら価値のある言葉を子どもたちから引き出せるのだろうか、ということが課題です。

授業参観者より

- ・ 高学年に向けて話し合いの土台ができています。子どもたちに任せっぱなしではなく、最後は先生が締めているのが良かった。
- ・ 集中力が途切れずに頑張った。みんなから出た言葉をまとめようとした場面があったので、写真に立ち返って、その写真に合うことばを選べばよかった。田中先生は子どもをほめて評価しているので、のびのび学習できている。



菊池先生より

1. 低学年の児童は価値語を作ると長文になることがある。子どもの話し言葉の中に価値ある言葉が含まれているので、先生が価値の高い言葉を黒板に書いたことが良かった。
2. 「なぜ～だと思いますか？」と質問を繰り返すことで理由が研ぎ澄まされていく。対話の肝は質問力である。
3. フリ・オチ・フォロー
プラス評価をフリの段階からしている。毎回小さなことでも価値づけている。

吾北小版菊池寺子屋～ほめ言葉のシャワー 効果的な声掛けとは？～

① 内容面以外のところでほめる

言葉、発言の構成や比喻表現等の内容面についてばかりほめがちですが、声、態度、表情などについてほめることが大事です。例えば、学習規律的なプラス評価も大事ですが、「みんなが聞いてくれるから楽しく学び合えるんだよね」と、大きなプラスにしていける必要があります。「こういう子どもや授業を作りたい」とビジョンを持ち、授業でも普段の対話でも、教師が意識しましょう。

② コミュニケーション力＝(内容＋声＋態度)×思いやり

みんなが関係を良くするために行うのがコミュニケーション。ほめて認めて励ますのが、そもそもの根幹です。ほめ言葉のシャワーの担任からの言葉は、その子の存在を認める言葉を伝えられます。それができるのが担任の先生ではないでしょうか。

③ Q&Aコーナー



高学年になると、ほめ言葉のシャワーが難しくはないでしょうか？

書かせたらいいと思います。一度型を入れてあげる。型、自由、型、自由…と行ったり来たりしながらレベルを上げていきましょう。少人数の学級では、帰りの会だけでなく、授業の終わりに取り組んでもいいですね。

高学年だから、女子だから、中学生だから、この子「ほめるのが苦手」と言っているからと、逃げてはいけません。最後は教師としての責任を取らないといけません。そのために、教師のフォロー力、パフォーマンス力を磨きましょう。



おわりに

当日は、教育委員会事務局しか訪問できませんでしたが、吾北小の皆様には、温かい歓迎を受けました。ありがとうございました。児童に「あいさつがよくできますね」と声をかけると、「あいさつをするのは当たり前です」と言ってくれました。公開授業は、1年生からコミュニケーション力をどのように鍛えているかが分かる授業で、大変参考になりました。多くの先生方に参観していただきかったです。